

市立博物館 20 年の歩み～特別展・企画展・収蔵品展～

加藤 隆志

当館は、昭和 56 年（1981）4 月に教育委員会社会教育課（当時）内に博物館準備係を置いて正式に建設準備を開始以来、14 年 8 カ月弱の準備期間を経て平成 7 年（1995）11 月 20 日の市制記念日に開館し、今年度で 20 周年を迎えた。その間、総入館者数は 256 万 8274 名（平成 27 年 11 月末現在）を数え、常設展示や特別展・企画展はもとより、さまざまな教育普及活動や資料の収集・整理保管等、多方面な活動を展開してきた。

こうした館での活発な活動の状況についての記録は「年報」に記載されてきたが、当館の年報は基本的に館内で作成・印刷したもので、事業の説明や視察対応などのごく限られた機会に使用されるのみとなっている。また、これらの年報は、博物館ホームページ上の「博物館の概要」の中に、平成 7～12 年度まではスキャン画面、13 年度以降は PDF ファイルで公開されているものの、当然のことながら年度ごとの収録となっており、例えば展示などの個々の活動の流れを見る場合は煩雑である点は否めない。そこで、20 周年を迎えたこともあり、今後の活動や運営に資することを目的として、これまでの活動の状況についてそれぞれまとめておきたい。ただし、この 20 年間の活動は多岐に及んでおり、全体を把握するにはかなりの分量や時間が必要となるため、今回は特別展・企画展・収蔵品展について整理し、講演会や講座等の教育普及活動や市民との協働による活動、学校教育への支援等は次号以降の研究報告において順次扱うことにする。

以下、これまでの年報の記載に基づき、平成 7 年度から 26 年度末までの各年度の特別展等を、開催した順にタイトル・内容・期間・観覧料・観覧者・関連事業を記していくが、それとともに各年度ごとの特記事項の簡単なコメントを付すことにしたい。関連事業の外部講師は氏名を入れるようにしたが、一部は資料の関係で未記載になっているところがある。また、旧津久井郡四町との合併に際して、旧津久井町の津久井郷土資料室（前・津久井郡郷土資料館）・尾崎罌堂記念館、旧藤野町の吉野宿ふじやが博物館関連施設となり、特に尾崎罌堂記念館や吉野宿ふじやでも企画展等が行われているが、ここでは市立博物館 20 年の歩みを振り返るといふ趣旨に沿っ

て博物館のみを取り上げ、そのほかの施設は別の機会に譲ることとする。

平成 7 年度

（1）開館記念特別展「郷土の巨匠 岩橋永遠」

内 容 文化勲章授与者の岩橋画伯の代表作（日本画 13 点・パステル画 27 点）を公開した。
期 間 平成 7 年 11 月 20 日（月）～12 月 10 日（日）
観覧料無料 観覧者 7,450 人
関連事業 12 月 10 日（日）講演会「永遠芸術の意義」
講師：草薙奈津子氏（山種美術館企画普及課長）、参加者 60 人

（2）相模原市・中国無錫市友好都市締結 10 周年記念（※主催・市長部局）

中華人民共和国南京博物院・無錫市博物館文物展「江南の至宝」

内 容 中国無錫市との友好都市締結 10 周年を記念して、南京博物院・無錫市博物館所蔵の新石器時代から漢代までの文物を紹介した。

期 間 平成 8 年 2 月 8 日（木）～3 月 10 日（日）
観覧料大人 500 円・小中学生 200 円 観覧者 14,749 人
関連事業 文物講演会

2 月 18 日（日）「日中を結ぶ『呉の路』」
講師：亀井明德氏（専修大学教授）

「高郵龍虬庄遺跡の考古学的新発見」

講師：張敏氏（南京博物院考古研究所副所長）、参加者 80 人

3 月 3 日（日）「南京博物院所蔵徐州東漢墓出土流金銅硯について」

講師：吉田恵二氏（國學院大學教授）

「呉国の印文陶と青銅器」講師：陳瑞農氏（無錫市博物館副館長）

「中国古代の工具史と現在」

講師：徐藝乙氏（南京博物院民俗研究所副所長）、参加者 200 人

本来、当館の担当ではない美術展が開館後の最初の特

別展であるのは、市内在住で文化勲章受章者であった岩橋画伯の代表作を広く紹介することと並んで、とかく開館当初の作業が多い中で、無事に開館を迎えることに重点を置いたことに拠るものであった。また、中国との友好都市締結記念という大掛かりな特別展がすぐに控えていたことも関係している。

平成8年度

(1) 企画展「相模原の昆虫—身近にいる小さな仲間たち—」

内 容 相模原とその周辺で見られる、昆虫の標本等を展示した。

期 間 4月28日(日)～5月26日(日)

観覧料無料 観覧者 8,925人

(2) 勝坂遺跡発掘70周年記念特別展「勝坂の民 農耕の民」

内 容 勝坂の土器文化を象徴する顔面把手と人物埴輪を比較する。

期 間 7月28日(日)～8月31日(土)

観覧料大人300円・小中学生100円 観覧者 3,021人

関連事業 講演会「人面裝飾付土器と勝坂文化」講師：渡辺 誠氏(名古屋大学教授)、参加者 166人

(3) 開館一周年記念特別展「日本の宇宙開発」

内 容 ロケットや人工衛星の模型、銀河連邦共和国関連の展示を行った。

期 間 11月10日(日)～12月23日(祝)

観覧料大人300円・小中学生100円 観覧者 6,847人

関連事業 講演会 11月17日(日)、参加者 101人

(4) 企画展「川と生活—相模川と人々のくらし—」

内 容 かつての相模川と人々との係わりを漁具等を中心に展示。

期 間 平成9年2月22日(土)～3月23日(日)

観覧料無料 観覧者 5,485人

関連事業 民俗講座(3月1日・2日・8日・15日の全4回)、参加者延べ 256人

※ 3月2日(日)は公開講座「歴史学から見た相模川」

講師：神崎彰利(当館館長)、参加者 147人

平成8年度から二、三年は、特別展夏・秋二回、企画展春・冬二回というように、人文系と自然系が交互に担当するスタイルとなっている。この年の夏季考古展は、当館の建設計画の一つが勝坂遺跡の出土品の展示スペースの要望からなされたことも反映している。

平成9年度

(1) 企画展「段丘崖の植物—斜面緑地は今—」

内 容 市内各地の段丘崖で見られる植物の姿を写真と標本で紹介。

期 間 4月25日(金)～5月25日(日)

観覧料無料 観覧者 5,479人

関連事業 5月11日(日)講演会「相模原の草花」、参加者 83人

講師：高橋秀男氏(神奈川県立生命の星・地球博物館前学芸部長)

(2) 特別展「絵図から地形図へ—近代地形図の誕生と発展—」

内 容 元禄日本図や伊能図から現代のコンピュータ・マップまでを紹介。

期 間 7月26日(土)～8月31日(日)

観覧料大人300円・小中学生100円 観覧者 2,284人

関連事業 8月10日(日)講演会「日本の地図作り」、参加者 88人

(3) 特別展「太陽系—母なる太陽とその家族を巡る—」

内 容 隕石や天体細密画の展示及び3Dシミュレーターの体験

期 間 11月2日(日)～12月7日(日)

観覧料大人300円・小中学生100円 観覧者 6,227人

関連事業 11月16日(日)講演会「太陽系の魅力と天体細密画」、参加者 51人

(4) 企画展「近世相模原の古文書にみる村の世界—遺されたみみず文字は語る—」

内 容 江戸時代に成立した相模原地域17か村で作成の古文書を中心に展示。

期 間 平成10年2月15日(日)～3月15日(日)

観覧料無料 観覧者 2,774人

関連事業 2月22日(日)講演会「公文書の世界」講師：神崎彰利(当館館長)

3月8日(日)講演会「私文書の世界」講師：神崎彰利(当館館長)、延べ参加者

326人

前年度と同様に四回の展示を行っている。特別展は有料で広く資料を集めて行う規模の大きなもの、企画展は観覧料は無料で各分野の学芸員が日頃の調査研究の成果を展示するといった位置付けとしていた。

平成10年度

(1) 企画展「第1回相模原市遺跡展」

内 容 塩田遺跡群の資料を紹介するとともに、田名向原遺跡のミニシンポジウムを実施。

- 期 間 4月26日(日)～6月21日(日)
 観覧料無料 観覧者 9,138 人
 関連事業 5月5日(祝) 田名向原遺跡のミニシン
 ポジウム、参加者 191 人
 5月10日(日) 当麻亀ノ甲遺跡見学会、
 参加者 14 人
 5月24日(日)・6月14日(日) ギャラ
 リートーク、延べ参加者 44 人
- (2) 特別展「相模原が海だったころ」
 内 容 中津層群産出の化石を中心に展示した。
 期 間 7月18日(土)～8月30日(日)
 観覧料大人 300 円・小中学生 100 円 観覧者 3,965 人
 関連事業 7月26日(日) 講演会「神奈川の化石」、
 参加者 40 人
 講師：松島義章氏(神奈川県立生命の星・
 地球博物館前学芸部長)
 8月9日(日) ワークショップ「化石を
 調べよう」、参加者 40 人
- (3) 特別展「浮世絵名品展～春信・歌麿・豊国・北斎・
 広重～」
 内 容 神奈川県立歴史博物館所蔵の丹波コレク
 ション等を展示。
 期 間 9月10日(木)～10月11日(日)
 観覧料大人 300 円・小中学生 100 円 観覧者 5,540 人
 関連事業 9月27日(土) 講演会「浮世絵の歴史と
 魅力」、参加者 112 人
 講師：山口桂三郎氏(立正大学教授)
 浮世絵講座「浮世絵の基礎知識」、延べ
 参加者 207 人
 9月19日(土) 講師：橋本健一郎氏(神
 奈川県立歴史博物館専門学芸員)
 10月10日(祝) 講師：横田洋一氏(神奈
 川県立歴史博物館専門学芸員)
 9月23日(祝) 浮世絵刷り実演会、実演：
 渡邊木版美術画廊
- (4) 収蔵品展「描かれた 120 年前の神奈川～迅速測図の
 世界～」
 内 容 当館所蔵の「迅速測図」及び「迅速測図
 原図復刻版」を公開した。
 期 間 10月24日(土)～平成 11 年 1 月 10 日(日)
 観覧料無料 観覧者 9,200 人
 関連事業 11月3日(祝)「地形図から景観を読む」、
 参加者 54 人
- (5) 企画展「現代の時報～時をはかる、その今と昔～」
 内 容 時報システム・水晶時計・原子時計・天

文時計等の展示。

- 期 間 平成 11 年 1 月 24 日(日)～3月22日(祝)
 観覧料無料 観覧者 6,136 人
 関連事業 2月21日(日) 講演会「時刻と私たちの
 生活」、参加者 44 人
 平成 8・9 年度は夏場に人文系、秋に自然系といった
 他館とは別のサイクルであったが、この年から夏一自然
 系、秋一人文系に変更された。秋の浮世絵展は、神奈川
 県立歴史博物館所蔵の浮世絵コレクションから優品 100
 点余りを一挙で紹介するものであったが、この年は神奈
 川国体があり、その開催時期の関係で通常よりも早い会
 期となったため、終了後に収蔵品展を開催し、年間五回
 の展示となっている。

平成 11 年度

- (1) 企画展「都市化の中の暮らし」
 内 容 家電製品等を通じて、昭和 30 年代から
 の暮らしの移り変わりを展示した。
 期 間 4月29日(祝)～6月13日(日)
 観覧料無料 観覧者 9,528 人
 関連事業 5月16日(日)「家電製品から見た戦後
 の暮らし」、参加者 23 人
 講師：青山芳之氏(順天堂大学教授)
- (2) 特別展「水生昆虫の世界」
 内 容 標本や水槽を使ってゲンゴロウ等の水生
 昆虫及び水辺の環境を展示。
 期 間 7月17日(土)～8月31日(火)
 観覧料大人 300 円・中学生以下無料 観覧者 8,018 人
 関連事業 8月8日(日) 連続講演会「おもしろ水
 生昆虫学」、参加者 70 人
 講師：石綿進一氏(神奈川県環境科学セ
 ンター・金田彰二氏(日本工学院専門学
 校)・岸一弘氏(茅ヶ崎市文化資料館)・
 野崎隆夫氏(神奈川県環境科学センター)
- (3) 収蔵品展「相模原の農機具」
 内 容 脱穀・調製用具に焦点を当て、かつての
 農業の一端を紹介。
 期 間 9月18日(土)～10月17日(日)
 観覧料無料 観覧者 4,686 人
- (4) 特別展「描かれた農耕の世界」
 内 容 県内及び周辺地域に残る四季耕作図や養
 蚕図・農具図等を展示。
 期 間 10月30日(土)～11月28日(日)
 観覧料大人 300 円・小中学生 100 円 観覧者 2,989 人
 関連事業 11月3日(祝) 講演会「四季耕作図から

見えるもの」、参加者 50 人
 講師：河野通明氏（神奈川大学教授）
 11 月 14 日（日）講演会「農民文化と農耕
 図」、参加者 35 人
 講師：佐藤常雄氏（筑波大学教授）

(5) 収蔵品展「縄文土器がいっぱい」

内 容 遺跡発掘調査の成果を公開し、土器の形
 や縄文時代の暮らしを紹介した。
 期 間 12 月 11 日（土）～平成 12 年 1 月 16 日（日）
 観覧料無料 観覧者 3,531 人
 関連事業 12 月 18 日（土）講演会「縄文人の土木技
 術」、参加者 75 人
 講師：山田昌久氏（東京都立大学助教授）
 1 月 10 日（祝）講演会「よみがえる文化
 財」、参加者 115 人
 講師：村田忠繁氏（財・元興寺文化財研
 究所）

(6) 企画展「星空探訪」

内 容 星空に親しむことをテーマに、古星図や
 隕石などを展示。
 期 間 平成 12 年 1 月 29 日（土）～3 月 26 日（日）
 観覧料無料 観覧者 7,916 人
 関連事業 2 月 20 日（日）講演会「スターウォッチ
 ングに出かけよう」、参加者 49 人
 「星に親しむ集い」、参加者 33 人
 講師はいずれも国司 真氏（財・天文博
 物館五島プラネタリウム解説員）
 2 月 4 日（金）スターウォッチング、参
 加者 28 人

前年度に続けて収蔵品展を二回に渡って開催し、会期
 の調整等を行っている。秋季特別展は、神奈川県指定文
 化財の箱根町早雲寺所蔵の「耕織図」など、県内や東京
 の博物館及び個人が所蔵するさまざまな四季耕作図や養
 蚕図、農具図を集めて展示したものであった。

平成 12 年度

(1) 企画展「かわらの小石～石から探る相模川の歴史～」

内 容 相模川流域の地学的な特徴とその生い立
 ち、石と人々の生活などを紹介。
 期 間 4 月 29 日（土）～6 月 25 日（日）
 観覧料無料 延べ観覧者 11,635 人
 関連事業 5 月 21 日（日）講演会「河原の石の起源
 を探る」、参加者 87 人
 講師：平田大二氏（神奈川県立生命の星・
 地球博物館学芸員）

5 月 14 日（日）～6 月 18 日（日）の全
 4 回・地質学講座、参加者 116 人。第二
 回は上記講演会。

5 月 13 日（土）ワークショップ「石をみ
 がいて文ちゃんをつくろう」、参加者 9 人

(2) 特別展「花を描き、花を知る～植物画の魅力～」

内 容 日本の近代植物学の発展に寄与した牧野
 富三郎などの植物画を展示した。
 期 間 7 月 20 日（祝）～9 月 3 日（日）
 観覧料大人 300 円・中学生以下無料 観覧者 6,037 人
 関連事業 7 月 30 日（日）講演会、参加者 98 人
 「牧野富太郎の植物画」講師：里美和彦
 氏（高知県立牧野富太郎植物園学芸職員）
 「シーボルトの日本研究を支えた絵師た
 ち」講師：石山禎一氏（日蘭学会会員）
 8 月 5 日（日）植物画入門講座「植物の
 観察とスケッチ」、参加者 34 人
 講師：豊田路子氏（植物画家）

(3) 収蔵品展「職人の道具」

内 容 当館所蔵の職人の道具及び県立歴史博物
 館所蔵の「神奈川の職人道具コレクショ
 ン」の資料を展示した。
 期 間 9 月 15 日（祝）～10 月 15 日（日）
 観覧料無料 観覧者 5,005 人
 関連事業 10 月 8 日（日）記録映画上映会「相模原
 の職人～下駄作り～」、参加者 33 人
 講師：小林梅次氏（前市文化財保護委員）
 10 月 9 日（祝）「大山独楽の絵付け体験」、
 参加者 25 人
 講師：播磨啓太郎氏（大山独楽作り職人）

(4) 特別展「幕末・維新の相模原～村の殿様 旗本藤澤
 次謙と村人たち～」

内 容 市内上相原村の領主であった藤澤氏の足
 跡を中心に当時の様子を探る。
 期 間 10 月 28 日（土）～12 月 3 日（日）
 観覧料大人 300 円・小中学生 100 円 観覧者 2,942 人
 関連事業 11 月 3 日（祝）講演会「幕末の旗本～勤
 皇か、佐幕か～」、参加者 171 人
 講師：神崎彰利（当館館長）
 11 月 23 日（祝）講演会「点描・藤澤次謙」、
 参加者 138 人
 講師：安西 勝氏（郷土史家）

(5) 企画展「縄文人の『環境問題』一廃棄・開発・リサ
 イクル～」

内 容 市内外の遺跡資料から縄文人の環境問題

と現代のそれとを対比して捉えた。

期 間 平成13年1月27日(土)～3月25日(日)

観覧料無料 観覧者 6,039 人

関連事業 3月4日(日)講演会「私の中の縄文人」、
参加者 106 人

講師：大竹幸恵氏(長門町原始・古代ロ
マン体験館学芸員)

「職人の道具」は収蔵資料とともに、県立歴史博物館
所蔵の県指定有形民俗文化財の職人の道具も展示した。
「縄文人の『環境問題』—廃棄・開発・リサイクル—」は
そのユニークな切り口が注目された。

平成13年度

(1) 企画展「みんなで調べたセミのぬけがら」

内 容 市民参加型の「セミのぬけがら調査」の
成果や各種セミの標本などを紹介。

期 間 4月28日(土)～6月24日(日)

観覧料無料 観覧者 11,430 人

関連事業 5月26日(土)記念講演会「セミの世界
をたずねて」

講師：橋本治二氏(日本セミの会代表)、
参加者 50 人

6月10日(日)セミのぬけがら調査説
明会、参加者 57 人

(2) 特別展「星の測量～角度をはかり、位置をもとめる
～」

内 容 江戸時代からの天体観測や測量道具、伊
能忠敬実測中図などを紹介。

期 間 7月20日(祝)～9月2日(日)

観覧料大人 300 円・中学生以下無料 観覧者 3,468 人

関連事業 7月29日(日)ワークショップ「星空模
型(天球儀)をつくろう」、参加者 37 人

8月5日(日)記念フォーラム「宇宙を
語る」

I 講演「眼球の中の宇宙」杉浦康平氏(神
戸芸術工科大学教授)

II 朗読「ラジオスター・レストラン」寮美
千子氏(文学者)、明石隼汰氏(キーボード)

III 講演「宇宙空間を使う電波観測～科学
衛星「はるか」が観る宇宙」

平林久氏(宇宙科学研究所教授)、参加
者 83 人

8月19日(日)記念講演「はらかな星空
へのステップ～星までの距離～」

講師：磯部瑠三氏(国立天文台助教授)、

参加者 66 人

(3) 「ロボフェスタ神奈川 2001 エネルギー体験館」(※
主催・資源エネルギー庁/関東経済産業局/相模原
市)

内 容 みよう,ふれよう電気の世界をテーマに
電気の性質や発電の仕組みを紹介。

期 間 10月6日(土)～10月14日(日)

観覧料無料 観覧者 20,172 人

関連事業 10月13日(土)記念講演「ロボットとい
う便利な道具」

講師：馬淵清資氏(北里大学教授)、参加
者 63 人

10月14日(日)、記念講演「小惑星探査
ロボット」

講師：古光徹雄氏(宇宙科学研究所助手)、
参加者 61 人

(4) 特別展「“道”再発見～道の役割とその移りかわり～」

内 容 道と文化をテーマに「東海道宿駅制度
400 年記念」として絵図・地図や古文書
などを紹介。

期 間 10月27日(土)～12月2日(日)

観覧料大人 300 円・小中学生 100 円 観覧者 2,937 人

関連事業 11月3日(土・祝)講演「近世の道とそ
の役割」講師：神崎彰利(当館館長)、参
加者 87 人

11月18日(日)講演「鉄道の敷設と地域
社会」講師：老川慶喜氏(立教大学教授)、
参加者 79 人

11月23日(日)展示解説「館長が語る“諸
街折絵図”」講師：神崎彰利(当館館長)、
参加者 54 人

11月4日(日)・23日(土)「ウオークラ
リー～市内の道や坂を歩く～」、参加者：
延べ 33 人

(5) 第5回収蔵品展「桐生亮コレクション—虫や花に魅
せられて—」

内 容 故桐生亮氏寄贈資料のコウチュウ標本や
採集道具などを紹介。

期 間 平成13年12月15日(土)～平成14年1月14日(祝)

観覧料無料 観覧者 3,756 人

(6) 企画展「昔の暮らし 昔のあそび」

内 容 1960 年代の「家庭電化」の普及と子どもの
遊び・まちの景観などの変遷を、学校の
授業に活用できる形で資料や写真で紹介。

期 間 平成14年1月26日(土)～3月24日(日)

観覧料無料 観覧者 15,884 人

関連事業 実演「昔のあそび」

2月10日(日)「『街頭紙芝居』の口演」
講師：安野侑志氏(大阪・紙芝居コミュニティーセンター)、参加者 265 人

3月3日(日)「『お手玉』～作って・歌って・遊ぼう～」

講師：箭内クラ子氏(日本のお手玉の会)ほか、参加者 68 人

体験「昔のあそび」

2月17日(日)、3月10日(日)「『けん玉』で遊ぼう」

講師：田上文昭(日本けん玉協会)ほか、参加者延べ 174 人

2月3日(日)・3月17日(日)「『お手玉』で遊ぼう」

講師：箭内クラ子氏(日本のお手玉の会)ほか、参加者延べ 211 人

後にも有力な手法となる市民参加型の展示を「セミのぬけがら調査」成果を活用して行っている。「道」再発見～道の役割とその移りかわり～」は東海道宿駅制度400年記念として、県博物館協会から県下の博物館に協力依頼があり、それを受けての展示である。夏季特別展では、伊能忠敬記念館所蔵の国の重要文化財に指定されている暦関係の資料を展示したほか、巡回展であるロボフェスタを実施するなど、年間を通じての会期の関係があり、六回の展示を行っている。

平成14年度

(1) 企画展「しらべよう、このまちの植物のこと」

内 容 市民参加型の「さがみはらタンポポ調査」の成果や各種植物標本などを展示し、地域の自然の現状や変化などを紹介。

期 間 4月27日(土)～6月16日(日)

観覧料無料 観覧者 8,564 人

関連事業 5月18日(土)、記念講演会「日本のタンポポは、今」

講師：小川潔氏(東京学芸大学助教授)、参加者 81 人

5月26日(日)・6月2日(日)植物学教室「植物を採集して標本をつくろう」、参加者延べ 27 人

6月9日(日)ミニシンポジウム「地域の自然を見つめる市民の眼」、参加者 60 人

6月1日(土)・15日(土)展示解説、延べ参加者 23 人

(2) 特別展「昆虫のふしぎ～地球は虫でいっぱい～」

内 容 クワガタムシの標本や生き虫のほかに、光り輝く虫や大きな虫、変わった形をした虫などを展示し、多くの謎を秘めた昆虫の不思議を紹介。

期 間 7月20日(土)～9月1日(日)

観覧料大人 300 円・高校生以下無料 観覧者 16,602 人

関連事業 7月28日(日)～8月31日(土)全3回「昆虫採集入門教室」、参加者延べ 37 人

8月3日(土)・4日(日)「昆虫を描く～サイエンス・イラストレーター木村政司の世界～」、講師：木村政司氏(日本大学助教授)、参加者延べ 500 人

7月27日(土)ほか展示解説(全2回)、参加者延べ 122 人

(3) 第6回収蔵品展「講中の共有道具」

内 容 講中の解散などによって当館に寄贈された冠婚葬祭で用いる道具類などを展示し、講中道具の持つ意味や県内の関連する資料を紹介。

期 間 9月14日(土)～10月14日(祝)

観覧料無料 観覧者 4,927 人

関連事業 9月22日(日)講演会(第5回日曜講演会)「料理文化と食器」

講師：原田信男氏(国士館大学教授)、参加者 55 人

9月21日(土)・10月14日(月)「バックヤード公開と資料整理体験」、参加者延べ 10 人

9月29日(日)展示解説「市域の講中と講中道具」、参加者 24 人

(4) 企画展「子どもたちの暮らし～昭和40年代を中心に～」

内 容 人口が急増し始めた昭和40年前後の相模原の様子とその当時の子どもたちの暮らしを写真や資料、再現した駄菓子屋などの展示で紹介。

期 間 10月26日(土)～12月8日(日)

観覧料無料 観覧者 14,727 人

関連事業 11月17日(日)記念講演会「薄れゆく昭和の記録～昭和の日常博物館の取り組みとその意義～」

講師：市橋芳則氏(師勝町歴史民俗資料

館)、参加者 55 人

11 月 4 日(祝)・23 日(土) 展示解説、
参加者延べ 35 人

(5) 第 7 回収蔵品展「豊かさの研究 - 石器時代から見る
未開と文明 -」

内 容 当館収蔵資料のほか市内出土の石器や復
元した投槍器などの展示から、当時の技
術や機能性の高さなどを紹介し豊かさ
について考察。

期 間 平成 15 年 1 月 26 日(土)～4 月 6 日(日)
観覧料無料 観覧者 10,104 人

関連事業 2 月 23 日(日) 講演会(第 10 回日曜講
演会)「原始の豊かさ・今の豊かさ - 縄
文時代を中心に -」

講師:長岡文紀氏(県生涯学習文化財課)、
参加者 135 人

3 月 22 日(土)「石器づくり体験教室」
講師:御堂島正氏(かながわ考古学財団)、
参加者 30 人

1 月 26 日(日)ほか全 4 回展示解説、参
加者延べ 64 人

[参考] 江成常夫写真展「時代の肖像～昭和史の主役たち
～」(※主催・相模原市教育委員会)

内 容 写真家江成常夫氏の代表作「百肖像」を
中心とした著名人のポートレート 125 点
を展示。

期 間 平成 14 年 6 月 23 日(日)～7 月 7 日(日)
観覧料大人 300 円(18 歳以下無料) 観覧者 2015 人

関連事業 6 月 23 日(日)「作者によるギャラリー
トーク」、参加者 100 人

7 月 7 日(日) 紫綬褒章受賞記念講演会
「写真・明日への地平」、参加者 178 人

前年度と同様に植物関係の市民参加の展示を実施し
ている。市内出身の写真家江成常夫氏の写真展を実施
している。これまでは年度をまたいだ展示は行ってい
なかったが、14～15 年度から春休みや場合によっては
5 月の連休までを会期とするものを実施するようになった。

平成 15 年度

(1) 第 7 回収蔵品展「豊かさの研究 - 石器時代から見る
未開と文明 -」(※前掲)

(2) 企画展「な～るほど!サイエンス」

内 容 「サイエンス展示・実験ショーアイデア
コンテスト入賞作品」を中心に展示し、

体験や実験を通じて自然法則を理解し科
学へ親しむ機会を提供した。

期 間 4 月 26 日(土)～6 月 22 日(日)

観覧料無料 観覧者 14,578 人

関連事業 「実験ショー」4 月 27 日(日)ほか会期
中の日曜日及び休日(延べ 12 回)

講師:菅原賢氏(厚木市子ども科学館・
第 1 回)、牧原正記氏(日本科学未来館・
第 5 回)ほか科学館職員及び小中学校教
諭等、延べ参加者 1,535 人

(3) 特別展「水晶ってすばらしい! - その美と実用の魅
力 -」

内 容 天然水晶から人工水晶まで様々な水晶の
原石を中心に展示し、水晶の形などの魅
力や科学技術を支えている水晶の実用面
を紹介した。

期 間 7 月 19 日(土)～9 月 23 日(祝)

観覧料大人:300 円・高校生以下無料 観覧者 8,870 人

関連事業 7 月 27 日(日)・8 月 3 日(日) 水晶教室「
パソコンで学ぶ、水晶のかたちの不思議」
講師:岩崎秀夫氏(理学博士)、延べ参加
者 37 人

8 月 17 日(日)・23 日(土) 子ども水晶
教室「水晶博士になろう」、延べ参加者
57 人

8 月 31 日(日) 講演会「水晶のはなし」

講師:青木正博氏(地質調査総合センター
地質標本館館長)、参加者 80 人

8 月 2 日(土)ほか展示解説(全 4 回)、
延べ参加者 136 人

(4) 第 8 回収蔵品展「～大地さんと未来さんが見つかる
～ちょっと昔の相模原」

内 容 収蔵されている資料の中から、学校の授
業で活用できるような道具やモノを展示
し、子どもたちの調べ学習等にも活用し
た。

期 間 10 月 11 日(土)～12 月 14 日(日)

観覧料無料 観覧者 16,633 人

関連事業 10 月 12 日(日)ほかチャレンジ体験「
昔の道具を使ってみよう」(全 6 回)、
参加者延べ 295 人

11 月 3 日(月・祝)「わらぞうり作り教
室」講師:中村俊夫氏(相模原市老人
クラブ連合会麻溝会長)ほか
参加者 43 人

10月19日(日)ほか展示解説(全3回)、
参加者:延べ90人

(5)新発見考古速報展「発掘された日本列島2003」

内 容 文化庁と各開催館主催による巡回展で、
日本列島各地で行われた発掘調査の出土
品を中心に展示するとともに、当館の地
域展は「相模原の遺跡調査の歩み」を紹
介した。

期 間 平成16年1月24日(土)～2月22日(日)

観覧料大人:300円・高校生以下無料 観覧者8,450人

関連事業 2月8日(日)記念講演「王権の断絶と
継体天皇・今城塚古墳」

講師:吉村武彦氏(明治大学教授)、参
加者200人

2月1日(日)・15日(日)展示解説、参
加者延べ270人

(6)企画展「相模原の石仏～石仏が伝える地域の歴史～」

内 容 石仏の実物、複製や写真をはじめとして
古文書などの資料を展示し、石仏が示し
ている地域の歴史などを紹介した。

期 間 平成16年3月20日(土)～5月23日(日)

観覧料無料 観覧者10,308人

関連事業 4月18日(日)記念講演会「石仏調査から
分かること」

講師:小川直之氏(國學院大学教授)、参
加者172人

5月23日(日)日曜講演会「相模原の石仏
調査」講師:当館学芸員、参加者198人

4月3日(土)フィールドワーク「石仏を
見る」、参加者29人

※5月5日(祝)のフィールドワークは雨
天中止

3月20日(土)・4月11日(日)・4月29
日(祝)・5月9日(日)展示解説

延べ参加者115人

「サイエンス展示・実験ショーアイデアコンテスト入
賞作品」を展示する巡回展のほか、「発掘された日本列
島」は文化庁主催の大掛かりなもので、大阪府の今城塚
古墳出土の大型埴輪など全国各地からの出土品ととも
に、地域展として市内の遺物も多数展示した。

平成16年度

(1)企画展「相模原の石仏～石仏が伝える地域の歴史～」

(※前掲)

(2)特別展「晃嶺の百花譜～五百城文哉の植物画～」

内 容 植物画家五百城文哉の晩年の作品を紹介
するとともに、高山植物の美しさを考察
した。

期 間 7月17日(土)～8月29日(日)

観覧料大人300円・高校生以下無料 観覧者3,719人

関連事業 7月18日(日)記念講演会「五百城文哉と
高山植物」

講師:大場秀章氏(東京大学総合研究博物
館教授)、参加者95人

7月31日(土)記念講演会「五百城文哉、
人と作品」

講師:寺門寿明氏(水戸市立博物館学芸
員)、参加者88人

8月7日(土)・8月8日(日)こどものた
めの植物画入門教室

講師:豊田路子氏(植物画家)、延べ参加
者49人

8月15日(日)・8月29日(日)展示解説、
延べ参加者105人

(3)特別展「相模原～その開発と変貌～」

内 容 相模原市市制50周年を契機に相模野の
開発と町から市へ、そして、市制施行後
の変化について紹介した。

第1部原野からの出発

期 間 10月2日(土)～11月3日(祝)

観覧料無料 観覧者5,412人

関連事業 10月31日(日)記念講演会「相模野の開発」
講師:神崎彰利(相模原市市史編さん室特
別顧問)、参加者92人

第2部変わりゆくまち

期 間 11月13日(土)～平成17年1月16日(日)

観覧料無料 観覧者10,217人

関連事業 11月21日(日)講演会「相模原の都市化の
道を探る」

講師:金原左門氏(中央大学名誉教授)、
参加者78人

12月12日(日)ミュージアムトーク

講師:藤本一美氏(鳥瞰図研究者)、参加
者59人

(4)学習資料展「～大地さんと未来さんが見つける～

ちよっと昔の暮らし」

内 容 収蔵されている資料の中から、学校の授
業で活用できるような道具やモノを展示
し、子どもたちの調べ学習等にも活用し
た。

期 間 平成17年1月26日(水)～3月13日(日)

観覧料無料 観覧者 10,535 人

関連事業 1月30日(日)・2月20日(日)・2月27日(日)・3月13日(日) チャレンジ体験、延べ参加者 385 人

2月11日(祝)・2月12日(土) うどん作り教室、延べ参加者 32 人

講師 小山和江氏・安藤弘子氏・畠山民子氏

2月6日(日)・3月6日(日) 展示解説、延べ参加者 83 人

(5) 企画展「プールの生きもの-秋・冬・春-」

内 容 小学校のプールで確認された生きものを、標本や生体、写真で展示するとともに、プールの生きものを利用した学校での様々な実践を紹介した。

期 間 平成17年3月26日(土)～6月19日(日)

観覧料無料 観覧者 13,576 人

関連事業 4月24日(日) 日曜講演会「プールの生きもの調査から」、参加者 56 人

5月21日(土)・5月28日(土)・6月4日(土) プールの生きもの観察会、延べ参加者 41 名

4月3日(日)・4月17日(日)・5月15日(日)・5月29日(日)・6月12日(日) 展示解説、参加者延べ 126 人

講師・解説は全て当館学芸員

市政施行 50 周年記念特別展として、博物館と市史編さん担当が期間を別にしながら合同で展示を行った。また、主に小学校への授業支援として実施し、現在も継続している学習資料展がこの年から開始されている。

平成 17 年度

(1) 企画展「プールの生きもの-秋・冬・春-」(※前掲)

(2) 特別展「地球 4 6 億年-顕微鏡で見る地球誕生のころ-」

内 容 地球誕生から生命が誕生したころにスポットを当て、隕石の薄片標本や単細胞生物などの標本を顕微鏡で見る手法で紹介した。

期 間 7月23日(土)～9月4日(日)

観覧料大人 300 円、高校生以下・65 歳以上無料

観覧者 5,531 人

関連事業 8月7日(日) 記念講演会「顕微鏡で宇宙をのぞいてみよう」

講師：河崎行繁氏(元三菱生命科学研究所)、参加者 62 人

7月24日(日)・7月31日(日)・8月14日(日)・8月21日(日)・8月28日(日)・9月4日(日)

楽しい実演コーナー、延べ参加者 278 人
講師：廣川隆彦氏(県産業技術総合研究所生物工学チーム主任研究員) 他

7月30日(土)・8月20日(土) 展示解説、延べ参加者 34 人

このほか毎週火・金曜に展示活動協力員による「電子顕微鏡でのぞくミクロな世界」を実施。

(3) 開館 10 周年記念特別展「博物館 10 年の歩み」

内 容 博物館の 10 年の歩みを振り返りながら、博物館が果たしている資料の収集保管など多くの役割について広く紹介した(実際の展示は全ての分野で分担して実施。)

期 間 10月8日(土)～12月11日(日)

観覧料無料 観覧者 12,740 人

関連事業 10月9日(日)・12月11日(日) 動物の日「昆虫標本の作製」講師：当館資料整理員・当館学芸員

10月10日(月)・10月22日(土)・10月30日(日) 考古の日「のぞいてみよう 土器や石器の整理作業」

講師：当館学芸員

10月15日(土) 地質の日「ローム層の中の鉱物を見てみよう」講師：当館学芸員

10月16日(日)・11月13日(日)・12月10日(日) 民俗の日「モノの扱い方を知ろう」講師：当館学芸員

10月19日(水)・11月9日(水)・11月30日(水) 天文の日「プラネタリウムの裏側見せます」

講師：当館プラネタリウム解説員、「天文台公開」講師：当館指導主事・当館職員

10月21日(金)・11月12日(土)・11月26日(土) 歴史の日「あなたのお宅の古文書読みます」

講師：御用留を読む会(10月)・さがみ古文書の会(11月)

10月23日(日)・11月5日(日)・12月

- 4日(日)地理の日「実体視してみよう」
 講師:展示活動協力員
- 10月29日(土)植物の日「植物標本を作ろう」 講師:相模原植物調査会
- 11月3日(木)動物の日「川の生きもの観察コーナー」 講師:水生動物調査会
- 11月6日(日)地質の日「いろいろな砂を顕微鏡で見してみよう」 講師:当館学芸員
- 11月19日(土)博物館の日(入館者数2,303人)
 全天周映画無料上映 参加者840人、常設展示解説 参加者18人
 バックヤード公開 参加者60人、常設展示クイズラリー 参加者419人
- 11月20日(日)博物館の日(入館者数1,747人)
 プラネタリウム無料投影 参加者970人、常設展示解説 参加者22人
 バックヤード公開 参加者39人、常設展示クイズラリー 参加者391人
 ミニコンサート、演奏:弥栄東高校音楽コース 参加者60人
- 11月23日(水)植物の日「ふしぎなタネの世界」 講師:相模原植物調査会
- 11月27日(日)地質の日「砂の中の小さな化石を見つけよう」 講師:当館学芸員
- 12月3日(土)植物の日「きょうは葉っぱの日」 講師:相模原植物調査会
- (4)学習資料展「～大地さんと未来さんが見つける～ちょっと昔のくらし2」
 内容 収蔵されている資料の中から学校の授業で活用できるような道具やモノを展示し、昔のくらしについて紹介した。
 期間 平成18年1月14日(土)～3月12日(日)
 観覧料 無料 観覧者15,729人
 関連事業 1月15日(日)・2月5日(日)・2月26日(日)・3月12日(日) チャレンジ体験
 講師:当館指導主事・当館学習指導員、延べ参加者320人
 1月29日(日)・2月12日(日) 藁草履作り教室 講師:麻溝地区老人クラブ連合会、延べ参加者80人
 1月22日(日)・2月19日(日)・3月
- 5日(日)展示解説、延べ参加者65人
- (5)企画展「相模野台地の火山灰～火山灰の地層を調べよう～」
 内容 市域の相模野台地に分布する関東ローム層や中津層群中の火山灰層について紹介した。
 期間 平成18年3月25日(土)～6月18日(日)
 観覧料無料 観覧者11,548人
 関連事業 5月28日(日)記念講演会「火山灰のはなし」講師 町田 洋氏(東京都立大学名誉教授)、参加者162人
 5月14日(日)・5月21日(日)・6月4日(日)・6月11日(日)地質講座、延べ参加者59名
 4月15日(土)・5月13日(土)・6月10日(土)博物館の仕事公開の日・地質の日
 「火山灰を顕微鏡で見してみよう」 講師:当館学芸員、延べ参加者131人
 4月1日(土)・4月8日(土)・4月23日(日)・5月27日(土)・6月18日(日)展示解説、延べ参加者126人
 (※関連事業はいずれも18年度に実施)
- 夏の特別展において、展示活動協力員(現在の市民学芸員の前身)による関連事業が行われたほか、開館10周年記念として各分野が分担して展示を行うとともに、ここでも多くの市民の会のメンバーが各種の関連事業に関わりながら進めていった。
- 平成18年度
- (1)企画展「相模野台地の火山灰～火山灰の地層を調べよう～」(※前掲)
- (2)企画展「はっぱはくぶつかん 緑の相模原」
 内容 女子美術大学及び相模原植物調査会と連携し、自然の代名詞となっている「緑」の由来である植物の葉を見つめ直し、地球環境の中での位置付けについて紹介した。
 期間 7月15日(土)～9月3日(日)
 観覧料無料 観覧者19,096人
 関連事業 7月23日(日)記念講演会「丹沢山麓自然だより」講師:足立直義氏(ナチュラリスト)、参加者142人
 7月15日(土)子どものためのワークショップ①「はっぱはくぶつかん」

7月26日(水) 子どものためのワークショップ②「はっぱでしおりづくり」

8月2日(水) 子どものためのワークショップ③「はっぱでアート」

8月9日(水) 子どものためのワークショップ④「森のお便り」

8月23日(水) 子どものためのワークショップ⑤「ゆらゆらはっぱモビール」

9月2日(土) 子どものためのワークショップ⑥「ゆらゆらはっぱモビール」

講師はいずれもはっぱプロジェクト(女子美術大学メディアアート科)・相模原植物調査会 延べ参加者 1,452名

7月16日(日)・8月19日(土) 展示解説、延べ参加者 63人

(3) 特別展「相模川・桂川流域の縄文時代一川に結ばれた先人の暮らし」

内 容 相模川・桂川流域の縄文遺跡に焦点をあて、そこに展開した縄文文化の諸相を探るとともに地域性を紹介した。

期 間 10月7日(土)～12月3日(日)

観覧料大人 300円、65歳以上半額、高校生以下他無料
観覧者 5,421人

関連事業 10月22日(日) 記念講演会「相模川上流域の縄文時代遺跡」

講師:奈良泰史氏(日本考古学協会会員)、参加者 142人

10月28日(日)・11月25日(土) 博物館の仕事公開の日・考古の日「出土品の整理やっています!」

講師:当館学芸員、延べ参加者 50人

11月11日(土) 勝坂遺跡縄文まつり(発掘現場説明会・石器づくり) 講師:当館学芸員、参加者 70人

10月15日(日)・11月19日(日) 展示解説、延べ参加者 59人

(4) 学習資料展「～大地さんと未来さんが見つける～ ちょっと昔の暮らし3」

内 容 収蔵されている資料の中から学校の授業で活用できるような道具やモノを展示し、昔の暮らしについて紹介した。

期 間 平成19年1月13日(土)～3月11日(日)

観覧料無料 観覧者 14,557人

関連事業 2月25日(日) 記念講演会「昭和の暮らしを考える」

講師:小泉和子氏(昭和の暮らし博物館館長・京都女子大学教授)、参加者 80人

2月11日(日) 映画会「ちいちゃんのかげおくり」、参加者 150人

1月20日(土)・2月3日(土)・2月18日(日)・3月4日(日) チャレンジ体験

講師:当館指導主事・当館学習指導員、延べ参加者 694名

1月27日(土)・3月11日(日) 展示解説、延べ参加者 60人

夏の企画展において、市内の女子美術大学と当館の市民の会である植物調査会との連携に基づく展示を行い、連携先の特色を生かした各種のワークショップを実施した。秋季特別展では、山梨県の釈迦堂遺跡出土の多数の国指定重要文化財の土器や土偶を展示しているが、有料の特別展は今のところこの年が最後となっている。

平成19年度

(1) 企画展「な～るほど!サイエンス2」

内 容 「サイエンス展示・実験ショーアイデアコンテスト入賞作品」を中心に展示し、体験や実験を通じて科学に親しむ機会を提供した。

期 間 4月22日(土)～6月17日(日)

観覧料無料 観覧者 10,662人

関連事業 5月27日(日) 記念講演会「理科大好きな子どもを育てたい」

講師:安田光一氏(おもしろ科学たんけん工房代表理事)、参加者 56人

4月29日(日) 楽しい実験ショー「ファラデーはえらい人-電気とじしゃくの切れない関係-

講師:佐藤泰氏(神奈川県立光陵高校教諭)・神奈川県青少年センター職員、参加者 154人

5月12日(土) 楽しい実験ショー「オットとびっくり音の大実験」

講師:佐藤泰氏(神奈川県立光陵高校教諭)・神奈川県青少年センター職員、参加者 77人

6月3日(日) 楽しい実験ショー「ヘロンの噴水」

講師:岩瀬宏一氏(おもしろ科学たんけん工房)、参加者 60人

4月22日(日) ワークショップ「宇宙折

り紙（ミウラ折り・星づくり）、参加者119人

5月3日（祝）ワークショップ「メビウスの輪」、参加者66人

5月5日（土）ワークショップ「宇宙折り紙（スペースシャトル）」・参加者60人

5月20日（日）ワークショップ「宇宙折り紙（ミウラ折り・星づくり）」、参加者92人

ワークショップの講師はいずれも展示活動協力員

6月9日（土）・6月17日（日）展示解説
講師：笠間友博氏（神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員）、参加者159人

（2）企画展「相模川の水生昆虫」

内 容 相模川とその支流に生息する水生昆虫について、特徴的な種類や絶滅してしまった種類などを紹介した。

期 間 7月14日（土）～9月17日（祝）

観覧料無料 観覧者19,918人

関連事業 8月26日（日）記念講演会「相模川の外来底生動物」

講師：石綿進一氏（神奈川県環境科学センター専門研究員）、参加者45人

7月29日（日）・8月19日（日）・9月1日（日）「水生昆虫を調べて標本を作ってみよう」

講師：当館学芸員・さがみはら水生動物調査会、参加者延べ97人

7月22日（日）・8月5日（日）・8月25日（土）・9月8日（日）展示解説、延べ参加者246人

（3）企画展「蚕を育て、糸を売る～相模原の養蚕製糸～」

内 容 地域の歴史や文化を考える上で欠かすことのできない養蚕・製糸について、地域のさまざまな動きや人々の生活との係わりの中で捉え、紹介した。

期 間 9月29日（土）～11月25日（日）

観覧料無料 観覧者11,959人

関連事業 10月28日（日）記念講演会「神奈川県の養蚕の展開」

講師：小泉勝夫氏（シルク博物館専門員）、参加者63人

10月8日（祝）展示講話「横浜開港と地域の人々の動向」

講師：西川武臣氏（横浜開港資料館調査研究員）、参加者32人

10月14日（日）展示講話「養蚕信仰と望地弁天」

講師：鈴木良明氏（神奈川県立金沢文庫長）、参加者40人

10月21日（日）展示講話「中野の町と川和縞」

講師：大塚喜一氏（津久井町史編さん委員会委員長）、参加者44人

11月3日（祝）「組紐作りと結びび」

講師：田倉歳宝氏・田倉英子氏・市民学芸員、参加者80人

10月20日（土）・11月23日（祝）体験学習「繭うごぎ作り」

講師：難波ハマ氏・小山明子氏・市民学芸員、延べ参加者313人

10月27日（土）体験学習「真綿作り」

講師：難波ハマ氏・小山明子氏・市民学芸員、参加者100人

11月4日（日）体験学習「糸取り」 講師：小山明子氏・市民学芸員、参加者138人

9月30日（日）・10月13日（土）・11月25日（日）展示解説、延べ参加者60人

（4）学習資料展「～大地さんと未来さんが見つける～ちょっと昔の暮らしⅣ」

内 容 収蔵されている資料の中から、学校の授業で活用できるような道具やモノを展示し、昔の暮らしについて紹介した。

期 間 12月22日（土）～平成20年3月9日（日）

観覧料無料 観覧者15,679人

関連事業 2月24日（日）記念講演会「江戸時代の庶民の生活道具を語る～心遣いの広さと深さ～」

講師：秋澤達雄氏（おもしろ体験博物館江戸民具街道館長）、参加者91人

1月26日（土）映画会「一つの花」、参加者70人

1月5日（土）・1月20日（日）・2月3日（日）チャレンジ体験「昔の道具を使ってみよう」

講師：市民学芸員、延べ参加者550人

2月17日（日）昔の明かり体験教室

講師：当館指導主事、参加者10人

1月12日（土）・3月2日（日）クイズ

ラリー

案内: 市民学芸員、延べ参加者 395 人
2月11日(祝)・3月8日(土)展示解説、
延べ参加者 30 人

それぞれの展示において一層関連事業に力を入れ、数多くのメニューで実施している。恒例の学習資料展では、市民学芸員がチャレンジ体験を行っており、現在では学習資料展全体の企画・内容も市民学芸員が担当している。

平成 20 年度

(1) 企画展「星空の世界へ」

内 容 「星・星座」、「太陽」、「月」、「空を見上げると」、「天体観測機器」、「プラネタリアウム」、「夢・情報コーナー」の7テーマにより、子どもから大人まで星空に親しむためのきっかけとなる資料を展示し、天文現象等の情報を提供した。

期 間 4月19日(土)～6月15日(日)

観覧料無料 観覧者 10,784 人

関連事業 5月25日(日)記念講演会「星くずから地球そして月へ」

講師: 小久保英一郎(国立天文台准教授)、参加者 201 人

4月29日(祝)ワークショップ「星づくり」

講師: 市民学芸員、参加者 244 人

5月3日(土)・5月4日(日)・5月5日(祝)・5月6日(祝)・5月11日(日)

ワークショップ「光る星座パネルづくり」

講師: 市民学芸員、延べ参加者 675 人

5月18日(日)プラネタリアウム工作教室 講師: 当館職員・当館指導主事・市民学芸員、参加者 48 人

6月8日(日)望遠鏡操作入門教室

講師: 当館職員・当館指導主事・星を観る会、参加者 12 人

4月27日(日)・6月1日(日)天体観測室見学 講師: 当館職員、延べ参加者 194 人

(2) 企画展「みてみて津久井ただいま調査中!! 第1期～津久井地域の自然～」

内 容 合併して新たに相模原市になった津久井地域は、関東山地南部や丹沢山地北部が含まれる自然豊かな地域であり、旧相模原市域に比べて大きく異なる特徴を持つ。これまでの調査で明らかになった津

久井地域の自然を広く市民に紹介した。

期 間 7月19日(土)～9月23日(祝)

観覧料無料 観覧者 20,203 人

関連事業 7月27日(日)日曜講演会「丹沢山地の地質」

講師: 青池寛氏(独立行政法人海洋研究開発機構)、参加者 133 人

8月24日(日)日曜講演会「丹沢のカエルやサンショウウオ」

講師: 草野保氏(首都大学東京助教)、参加者 65 人

8月23日(土)つくい探訪会「石老山」

講師: 当館学芸員、参加者 23 人

9月27日(土)つくい探訪会「発見!! 初秋の陣馬山」 講師: 当館学芸員、参加者 15 人

7月19日(土)・7月21日(祝)・8月3日(日)・8月9日(土)・8月30日(土)・

9月14日(日)クイズラリー 案内: 市民学芸員、延べ参加者 1,138 人

8月10日(日)・8月27日(水)・9月13日(土) 展示解説、延べ参加者 90 名

(3) 「みてみて津久井ただいま調査中!! 第2期～津久井地域の歴史と文化～」

内 容 旧石器時代～中世、民俗、近世～近現代の構成で、津久井地域の歴史を通史形式で概観できるように紹介した。

期 間 10月4日(土)～11月30日(日)

観覧料無料 観覧者 11,917 人

関連事業 9月28日(日)日曜講演会「津久井、謎の石造文化圏」 講師: 当館館長、参加者 132 人

10月26日(日)日曜講演会「津久井の古文書調査ことはじめ」

講師: 神崎彰利氏(市史編さん室特別顧問)、参加者 128 人

11月23日(日)日曜講演会「鈴木重光と内郷村調査～民俗調査ことはじめ～」

講師: 小島環禮氏(琉球大学名誉教授)、参加者 83 人

10月13日(祝)つくい探訪会「戦国の風景・津久井城歴史探訪」

講師: 県立津久井湖城山公園パークセンター職員、参加者 21 人

10月19日(日)つくい探訪会「甲州道

中歩き～民俗編～」講師：民俗調査会、参加者 33 人

11 月 9 日（日）つくい探訪会「歩いて出会える昔と今～城山町久保沢・谷ヶ原～中沢を訪ねる～」

講師：城山町エコミュージアムを育てる会、参加者 20 人

11 月 3 日（祝）・11 月 24 日（祝）繭うさぎ作り 指導：市民学芸員、延べ参加者 152 人

11 月 1 日（土）・11 月 15 日（土）展示解説 講師：当館学芸員、延べ参加者 31 人

(4) 学習資料展「～大地さんと未来さんが見つける～ちょっと昔の暮らしⅤ なつかしい学校と遊び」

内 容 収蔵されている資料を中心に学校の授業で活用できるような道具やモノを展示し、昔の暮らしについて紹介した。

期 間 平成 21 年 1 月 24 日（土）～5 月 10 日（日）
観覧料無料 観覧者 22,934 人

関連事業 2 月 22 日（日）記念講演会「わらべ歌が子どもを育てる」

講師：大熊進子氏（町田コダーイ合唱団指導者）、参加者 62 人

2 月 15 日（日）・3 月 2 2 日（日）ボンネットバス見学 解説：渋谷裕史氏、延べ参加者 490 人

3 月 1 日（日）・3 月 29 日（日）・4 月 19 日（日）・4 月 26 日（日）

チャレンジ体験「昭和の遊び、道具にチャレンジ！」講師：市民学芸員、延べ参加者 363 人

2 月 8 日（日）・3 月 8 日（日）・4 月 12 日（日）展示解説、延べ参加者 65 人

旧津久井郡四町との合併を経て、当館の常設展示は旧市域の相模原地域を扱っている点を踏まえ、津久井地域の自然や歴史を紹介する展示を二期に分けて行った。

平成 21 年度

(1) 学習資料展「～大地さんと未来さんが見つける～ちょっと昔の暮らしⅤ なつかしい学校と遊び」(※前掲)

(2) 企画展「スキスキ大スキ！カエル展」

内 容 女子美術大学、100 年カエル館（福島県喜多方市）、松橋利光氏（写真家）とのコ

ラボレーションにより、生物とアートの両面からカエルをとらえ、紹介した。

期 間 5 月 30 日（土）～8 月 30 日（日）

観覧料無料 観覧者 31,601 人

関連事業 6 月 28 日（日）記念講演会「トノサマガエルになる方法～日米の文学と環境をめぐって」

講師：アーサー・ビナード氏（詩人）、参加者 132 人

7 月 26 日（日）記念講演会「かえるといっしょ～写真で見る世界のかえり」

講師：松橋利光氏（写真家）、参加者 102 人

6 月 20 日（土）・8 月 22 日（土）ミュージアムトーク「カエル大学のケロロジ講座」

講師：高山ビッキ氏（100 年カエル館学芸員）、延べ参加者 43 人

7 月 29 日（水）・8 月 27 日（水）ワークショップ「カエルの折り紙」

講師：女子美術大学メディアアート学科・市民学芸員、延べ参加者 281 人

8 月 5 日（水）ワークショップ「1 本の針金でつくるカエル」

講師：女子美術大学メディアアート学科・市民学芸員、参加者 154 人

5 月 30 日（日）・7 月 20 日（祝）展示解説、延べ参加者 71 名

コンテスト「カエルアートコンテスト」

応募数 218 点（一般の部 平面 24 点・立体 26 点、子どもの部平面 120 点・立体 48 点）

審査員 高山ケロリ氏（100 年カエル館館長）、高山ビッキ氏（カエルタイムス編集長）、羽太謙一氏（女子美術大学教授）、女子美術大学学生代表（カエルプロジェクト）、教育長、博物館長

表彰 各部門ごとに平面及び立体それぞれ最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点を選出し、全体で教育長賞 1 点、カエルタイムス賞 1 点を選んだ。5 月 30 日（土）に表彰式を実施するとともに作品展は企画展と同時に開催した。

(3) 企画展「市民と歩いた横浜への道」

内 容 横浜開港 150 周年に合わせ、開港が地域社会に与えた影響について紹介した。ま

た、民俗調査会に参加する市民と協働して相模湖駅から横浜関内地区までフィールドワークを行い、その成果も展示した。

期 間 9月26日(土)～11月23日(祝)

観覧料無料 観覧者 11,574人

関連事業 10月25日(日)日曜講演会「横浜開港と生糸が運ばれた道」

講師:西川武臣氏(横浜開港資料館主任調査研究員)、参加者 155人

9月27日(土)・11月1日(日)・11月22日(日)「市民と歩いた横浜への道発表会」
発表:民俗調査会会員、延べ参加者 147人

10月11日(日)・11月8日(日)繭うさぎ作り 講師:市民学芸員、延べ参加者 267人

10月18日(日)・10月31日(土)・11月14日(土)展示解説 講師:当館学芸員、延べ参加者 17人

(4) 学習資料展「～大地さんと未来さんが見つける～
ちょっと昔の暮らしⅥ 戦争中から戦後の生活」

内 容 収蔵されている資料を中心に、学校の授業で活用できるような道具やモノを展示し、昔の暮らしについて紹介した。

期 間 平成22年1月23日(土)～4月4日(日)

観覧料無料 観覧者 14,024人

関連事業 2月28日(日)記念講演会「発明家エジソンの音を聴こう！」

講師:下藺大輔氏(町田少年少女発明クラブ企画指導員)、参加者 70人

3月21日(日)映像で見よう“昭和の相模原” 映写:相模原市16ミリ映画研友会、参加者 105人

2月7日(日)ほうち唄、農具体験

演者・解説:ほうち唄保存会、参加者 200人

2月11日(木)・2月21日(日)・3月7日(日)チャレンジ体験

指導:市民学芸員、延べ参加者 770人

3月29日(日)“昔の遊び”実験教室

指導:市民学芸員、参加者 65人

2月14日(日)・3月14日(日)展示解説、延べ参加者 30人

春の企画展では、女子美術大学・他館・写真家等との連携による展示を行い、展示の一環としてカエルアート

コンテストなども実施した。また、秋の企画展は横浜開港150周年に関する県博物館協会からの要請に応じて関係する展示としたが、市民とともに行ったフィールドワークを展示の柱とするなど、市民協働を前面に出した内容とした。

平成22年度

(※) 通年展示「津久井の自然と文化」

内 容 特別展示室を二つに分け、津久井地域を中心とした通年展示を行うコーナーと企画展示等を行うコーナーを設けて展示を行った。また、相模原市史および津久井町史の状況や成果、「さがみはらどこでも博物館」の成果である「発見のこみち勝坂」を紹介するとともに、博物館で活動する市民の会の調査成果なども併せて展示するコーナーを設けた。

期 間 4月29日(木)～平成23年5月8日

観覧料無料

構 成 相模原市史・津久井町史紹介コーナー
さがみはらどこでも博物館「発見のこみち勝坂」紹介コーナー
市民活動紹介コーナー

津久井地域の自然(地質) 関東山地と丹沢山地の地質・(生物) 津久井地域の生物

津久井地域の歴史と文化(考古) 津久井の原始古代遺跡・(歴史) 地図にみる津久井の姿・(民俗) 津久井の祭礼と行事
ミニ展示:一か月程度の期間を区切って、各コーナーでは扱えない資料を紹介。

鳥屋村絵図・新戸村絵図/大日野原遺跡の発掘調査/小正月の作り物/相模湖の観光

(1) 学習資料展「～大地さんと未来さんが見つける～
ちょっと昔の暮らしⅥ 戦争中から戦後の生活」(※前掲)

(2) 企画展「こんなに自然、あったんだ!～相模原市史自然編から～」

内 容 平成21年に刊行された『相模原市史自然編』の調査活動の中で撮影された数多くの写真を中心に、野外調査の様子や採集された資料などを展示し、市史刊行事業の意義や成果を紹介した。

期 間 7月3日(土)～8月31日(火)

- 観覧料無料 観覧者 28,791 人
 関連事業 7月25日・8月7日・8月21日展示解説
 講師:当館学芸員
- (3) J A X A相模原キャンパス特別公開関連事業「はやぶさ」カプセル特別展示
 内 容 J A X A (宇宙航空研究開発機構)相模原キャンパスの特別公開にあわせて、6月13日に地球に帰還した小惑星探査機はやぶさのカプセル等を特別公開した。
 期 間 7月30日(金)・31日(土)
 観覧料無料 観覧者 30,000 人
 関連事業 宇宙科学セミナー参加者 800 人・ミニミニ宇宙学校参加者 500 人
 全天周映画「H A Y A B U S A BACK TO THE EARTH」上映、入場者 1,677 人
- (4) 博物館実習生制作展
 内 容 博物館実習における実務実習の一環として展示制作を行い、実習生が企画・資料研究・パネル制作・列品までを体験した。
 期 間 9月17日(金)～10月31日(日)
 観覧料無料 観覧者 9,001 人
- (5) 城山エコミュージアム写真展「緑区しろやま・少し昔の写真展」
 内 容 「城山エコミュージアム」では、相模原市城山地区の歴史を記録として残すとともに、今までを振り返り、これからのまちづくりを考えるため、昔の行事や出来事・風習・街並みなどの写真を集める活動を行っており、その写真展を開催した。
 期 間 11月13日(土)～11月30日(火)
 観覧料無料 観覧者 4,307 人
 関連事業 11月23日(火)講演会「古い写真が語るしろやま地区の昔と今」講師:加藤正彦氏、参加者 73 名
- (6) 学習資料展「大地さんと未来さんが見つけるちょっと昔の暮らしⅦ～お父さんとお母さんが子どもだったころ～」
 内 容 収蔵されている資料を中心に、学校の授業で活用できるような道具やモノを展示し、昔の暮らしについて紹介した。
 期 間 12月11日(土)～平成23年2月27日(日)
 観覧料無料 観覧者 12,889 人
 関連事業 2月27日(日)記念講演会「高度経済成長期の子どもの文化～ろくむし遊びの記憶から～」
- 講師 清水 周氏(国立市教育委員会生涯学習課学芸員)、参加者 9 人
 12月12日(日)・12月23日(祝)・1月16日(日)・1月30日(日)・2月13日(日)昔あそび工作教室 講師:市民学芸員、延べ参加者 1,420 人
 12月23日(木)・1月23日(日)・2月12日(土)展示解説、延べ参加者 42 人
- (7) 企画展「相模原市遺跡発掘調査成果展」(共催・文化財保護課、協力・(財)神奈川県公園協会)
 内 容 過去およそ10年間の市内遺跡に関するさまざまな調査成果に加え、直近に行われた発掘調査の成果を速報的に提示し、発掘調査成果を市民に還元することにより、埋蔵文化財保護や発掘調査に対する市民の理解と協力を促進することを目的とした。
 期 間 平成23年3月20日(日)～5月8日(日)
 観覧料無料 観覧者 9,694 人
 関連事業 4月17日(日)考古の日「さがみはら遺跡リレートーク」、参加者 102 人
 3月27日(日)縄文体験教室第1回「弓矢づくり」、参加者 14 人
 講師:御堂島 正氏、伊丹 徹氏(神奈川県教育委員会文化遺産課)
 4月10日(日)縄文体験教室第2回「土器づくり」、参加者 17 人
 5月1日(日)縄文体験教室第3回「火おこし・土器焼き・弓矢体験」、参加者 16 人
 4月16日(土)一日考古学体験、参加者 9 人
 4月3日(日)・4月24日(日)・5月8日(日)展示解説、延べ参加者 59 人
 (※関連事業はいずれも23年度に実施)
- 津久井地域との合併を踏まえ、自然と文化を通年で紹介する展示を特別展示室の一部を利用して行った。この年の「はやぶさ」カプセル特別公開と2日間で30,000人の来館は、全国的にも注目を集めた。さらに、城山エコミュージアムの会の写真展、博物館実習の一環としての展示、その後も毎年行われている考古発掘展など、さまざまな取り組みが行われた。
- 平成23年度
 (1) 企画展「相模原市遺跡発掘調査成果展」(※前掲)

(2) はやぶさ地球帰還1周年記念企画展「宇宙とつながる私たち～探査機に託したメッセージ～」

内 容 「はやぶさ」の地球帰還1周年を迎えるにあたり、研究の成果や最先端の技術ではなく、社会との接点に着目して、これまでの太陽系探査を振り返った。

期 間 5月28日(土)～8月17日(水)

観覧料無料 観覧者 26,369人

関連事業 7月24日(日)講演会「あかつき飛行中：金星との再会をめざして」

講師：佐藤毅彦氏（JAXA宇宙科学研究所教授）、参加者75人

6月13日(月)はやぶさ地球帰還1周年記念特別上映、参加者210人

講師：上坂浩光氏（有限会社ライブ代表取締役・「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」監督）

6月13日(月)・7月29日(金)～8月7日(日)はやぶさカプセルレプリカ展示
展示協力・株式会社島精機製作所（和歌山市）

6月13日(月)～7月18日(月)全天周映画HAYABUSA絵コンテ特別展示

7月15日(金)～8月17日(水)池下章裕「リアル・スペース・アート展」

7月30日(土)池下章裕「リアル・スペース・アート展」トークライブ

(3) 「2011市民平和のつどい『ヒロシマ原爆展／江成常夫写真展～ヒロシマ万象～』」

内 容 「2011市民平和のつどい」として広島平和記念資料館所蔵の資料及び江成常夫氏から寄贈された写真約30点を展示した。
主催：相模原市、広島市、(公財)広島平和文化センター・平和記念資料館
主管：市民平和のつどい実行委員会 市教育委員会後援

期 間 8月25日(木)～8月31日(水)

観覧料無料 観覧者 5,100人

関連事業 8月28日(日)被爆体験者講話と江成常夫氏講演会、参加者300人

被爆体験者の講話 話者：相模原市原爆被爆者の会（久保ヨシミ氏、村田良成氏、植村キヨミ氏）、広島平和文化センター（松本都美子氏）

講演「レンズに映ったヒロシマ」講師：

江成常夫氏

(4) 博物館実習生制作展

内 容 博物館実習における実務実習の一環として展示制作を行い、実習生が企画・資料研究・パネル制作・列品までを体験した。

期 間 9月10日(土)～10月16日(日)

観覧料無料 観覧者 6,806人

(5) 収蔵品展「津久井郷土資料室所蔵資料紹介～市民の力で博物館資料へ～」

内 容 津久井郷土資料室が保管する膨大な資料のうち、相模湖や観光、国勢調査、陪審員、東京オリンピックなどに関わる資料を展示した

期 間 11月1日(火)～平成24年2月26日(日)

観覧料無料 観覧者 21,499人（「学習資料展」と同時開催）

(6) 学習資料展「大地さんと未来さんが見つけるちょっと昔のくらしⅧ～くらしと道具のうつりかわり～」

内 容 収蔵されている生活資料を中心に展示し、電化以前・以後のくらしと道具の変化について考える機会とした。

期 間 11月1日(火)～平成24年2月26日(日)

観覧料無料 観覧者 21,499人

関連事業 展示室デモンストレーション&チャレンジ体験コーナー 指導：市民学芸員
市民学芸員提供の昔の生活道具を実際に見て、触れ、使いながら現在との比較を楽しく体験した。

11月6日(日)展示室デモ(参加者298人)

11月13日(日)展示室デモ&チャレンジ体験(416人)

11月20日(日)展示室デモ(183人)

11月23日(祝)展示室デモ(278人)

11月27日(日)展示室デモ(203人)

12月4日(日)展示室デモ(196人)

12月11日(日)展示室デモ&チャレンジ体験(153人)

12月18日(日)展示室デモ(144人)

12月25日(日)展示室デモ(138人)

1月8日(日)展示室デモ&チャレンジ体験(251人)

1月15日(日)展示室デモ(264人)

1月22日(日)展示室デモ&チャレンジ体験(312人)

1月29日(日) 展示室デモ (251人)
 2月5日(日) 展示室デモ (232人)
 2月11日(祝) 展示室デモ&チャレンジ
 体験 (147人)
 2月12日(日) 展示室デモ (204人)
 2月19日(日) 展示室デモ (305人)
 2月26日(日) 展示室デモ (276人)
 11月13日(日)・12月11日(日)・1月
 22日(日)・2月11日(日) 展示解説、
 延べ参加者 30人

(7) 春季企画展「田名塩田遺跡群とその時代」・同時開催「速報展示 さがみはら発掘最新情報」(共催・文化財保護課)

内 容 田名塩田地区の区画整理事業に伴って調査された田名塩田遺跡群と、その周辺遺跡を取り上げ、市内有数の遺跡密集地である同地の歴史を探るための展示を行った。また、同時開催として近年発掘調査された市内の他遺跡を紹介し、発掘調査に関する市民の理解と協力を促進する機会に資する展示を行った。

期 間 平成24年3月17日(土)～5月6日(日)
 観覧料無料 観覧者 11,593人

関連事業 平成24年度3月25日(日)「博物館収蔵庫見学ツアー」(全4回)、参加者73人
 4月22日(日) 遺跡巡り「田名塩田・当麻地区の遺跡を歩こう!」、参加者37人
 3月20日(祝)・4月15日(日)・5月6日(日) 展示解説

前年の「ハヤブサ」カプセル公開を契機に、夏の展示としてJAXAとの連携展が行われるようになった。広島原爆と江成常夫氏の写真を併せた展示を実施するとともに、被爆体験者の語りを聞く機会を設けた。さらに、収蔵品展として、市民の会である水曜会の活動を紹介し、その成果を発表する展示を行った。

平成24年度

(1) 企画展「相模原市の遺跡 2012 田名塩田遺跡群とその時代」(前掲)

(2) ミニ企画展「自然観察会のはじまり」

内 容 44年前、県内のある新興住宅地の住民と大学生のグループが始めた“自然観察会”。この言葉のルーツとなった活動とそのひろがりを紹介した。

期 間 5月26日(土)～7月1日(日)

観覧料無料 観覧者 8,212人

(3) 企画展「宇宙科学の先駆者たち～糸川英夫と小田稔」

内 容 日本の宇宙開発の父であり、生誕100年を迎えた糸川英夫博士と、理学分野から宇宙科学の発展に寄与した小田稔博士の研究業績や人物像について紹介した。

期 間 7月14日(土)～9月2日(日)

観覧料無料 観覧者 21,063人

関連事業 7月22日(日)「ワークショップ「かさ袋ロケットを作って飛ばそう」、参加者42人

(4) 博物館実習生制作展

内 容 博物館実習における実務実習の一環として、分野別の収蔵資料を中心とした展示制作を行い、実習生が企画・資料研究・パネル制作・列品・展示解説までを体験した。※(5)と同時開催

期 間 9月16日(日)～10月28日(日)

観覧料無料 観覧者 8,777人

(5) 収蔵品展「津久井郷土資料室資料紹介～内郷の学校と子どもたち～」

内 容 津久井郷土資料室に保管されている膨大な量の資料類の整理を市民のボランティア(水曜会)が進めており、その一環として整理した資料の展示を行った。今回は地域の小学校の資料を中心に、かつての子どもたちと地域の係わり合いを取り上げた。

期 間 9月16日(日)～10月28日(日)

観覧料無料 観覧者 8,777人

関連行事 展示解説(会期中の毎日曜日)

講師:水曜会会員。

(6) 企画展「北里柴三郎展 - 伝染病の征圧は私の使命 -」

内 容 医学者・細菌学者として世界的な名声を博し「日本近代医学の父」とも呼ばれた北里柴三郎博士の業績と生涯を紹介した。ペスト菌発明の論文草稿(ドイツ語)や破傷風菌についての直筆の論文原稿をはじめ、愛用の顕微鏡、教え子である野口英世からの手紙などの資料を展示した。

期 間 11月10日(土)～12月16日(日)

観覧料無料 観覧者 7,623人

関連事業 11月10日(土) オープニングセレモニー(関係者のみ)、参加者59人

11月25日(日)講演会「伝染病との戦い
- 病原体の正体を暴け -」

講師: 森 孝之氏(北里柴三郎記念室次
長)、参加者 78人

12月2日(日)実験教室「顕微鏡による
微生物の観察」子ども向け(小学5年生
～中学生)5人・大人向け(中学生を除
く15歳以上)13人 講師: 北里大学薬
学部北里会微生物研究会

(7) 学習資料展「大地さんと未来さんが見つけるちよつ
と昔の暮らしⅨ～学校と家庭と遊び～」

内 容 昔の道具や暮らしについて、昭和30～
40年台を中心に「学校」・「家庭」・「遊び」
を紹介した。期間中は市民学芸員による
チャレンジ体験コーナーやクイズラリー
を行った。

期 間 12月23日(日)～平成25年2月3日(日)
観覧料無料 観覧者 6,118人

関連事業 1月6日(日)～27日の間の日曜日・
1月14日(祝)チャレンジ体験
「フラフープ」や「割り箸鉄砲」、「石臼ひ
き」などの体験、講師: 市民学芸員、延
べ参加者 1,496人

(8) 平成24年度かながわの遺跡展・巡回展「勝坂縄文展」

内 容 縄文時代の造形の中でも、特にさまざま
な装飾で知られる勝坂式土器に焦点を当
て、縄文土器の多様な姿と、名前の由来
となった国指定史跡勝坂遺跡を紹介し
た。

期 間 平成25年2月16日(土)～3月20日(水)
観覧料無料 観覧者 8,165人

関連事業 3月2日(土)講演会「縄文の造形と先
史時代芸術」

講師: 港 千尋さん(多摩美術大学教授)、
参加者 118人

3月9日(土)考古学講座「勝坂遺跡と
調査の歩み」「勝坂式土器をつくった人
びと」

講師 高橋智也氏(茅ヶ崎市教育委員
会)・当市文化財保護課職員、参加者
170人

2月17日(日)ワークショップ「めざせ!
縄文ヒーロー! in さがみはら」

3月3日(日)ワークショップ「きみも
太郎! in さがみはら」

3月17日(日)ワークショップ「縄文土
器の模様をさぐる in さがみはら」、延
べ参加者 79人

北里大学創立50周年を記念し、北里柴三郎博士の業
績を紹介する展示を行った。また、2年後の26年度に
は北里研究所創立100周年の展示も行っている。前年に
引き続いて水曜会の展示のほか、県教育委員会の考古巡
回展も実施している。数年前から特別展示室内を区切っ
て別々の内容の展示を行うことが増えている。

平成25年度

(1) 企画展「相模原市の遺跡2013 縄文時代のまつり
の道具～川尻遺跡・小池氏コレクション展」

内 容 縄文人は、土偶・耳飾りなどの土製品や
石棒・石剣といった石製品を作り、まつ
りに用いた。今回は国指定史跡川尻石器
時代遺跡で多く発見された道具を中心に
紹介を行った。

期 間 4月2日(火)～5月6日(月)
観覧料無料 観覧者 5,970人

関連事業 4月7日(日)・4月28日(日)・5月6
日(月)展示解説、延べ参加者 65人

(2) 収藏品展「蔵の中の世界・福田家資料紹介～市民の
力で博物館資料へ～」 ※ (3)と同時開催

内 容 市民(福の会)とともに整理を行ってい
る南区下溝地区の福田家の蔵に保管され
ていた資料を中心に、かつての地域の暮
らしぶりを伝える資料を公開した。

期 間 5月25日(土)～6月30日(日)
観覧料無料 観覧者 6,796人

関連事業 6月2日(日)・6月23日(日)展示説
明「展示を語ろう」 講師: 福の会会員、
延べ参加者 238人

(3) 収藏品展「収藏品で知る尾崎罌堂の明治・大正・昭
和」 ※ (2)と同時開催

内 容 憲政の父、尾崎行雄(罌堂)に関する近
年収集された書簡などの資料を公開し
た。

期 間 5月25日(土)～6月30日(日)
観覧料無料 観覧者 6,796人

(4) 企画展 JAXA × 博物館 はやぶさ2応援企
画展「片道から往復へ～新たな宇宙時代の到来～」

内 容 これまでの「はやぶさ」の実績を踏まえ、
平成26年度に打上げが予定されている
「はやぶさ2」計画の紹介をはじめ、旧

- ソ連（現ロシア）が実験で使用したビオン衛星の回収用カプセルなど、実際に宇宙から地球に戻ってきた実験装置や、最近ロシアに落下したチェラビックス隕石などを展示した。また、小惑星探査機「はやぶさ」が持ち帰った小惑星「イトカワ」の微粒子を期間限定で展示し、光学顕微鏡で直接観覧することができる世界初の特別公開を実施した。
- 期 間 企画展7月13日（土）～9月1日（日）・微粒子公開7月17日（水）～7月28日（日）
観覧料無料（微粒子公開は事前申し込み・当日整理券） 観覧者延べ33,675人（微粒子観覧者7,146人）
関連事業 7月28日（日）記念講演会「やっぱり小惑星はおもしろい」
講師：布施哲治氏（情報通信研究機構主任研究員）、参加者 90人
8月10日（土）・8月18日（日）・8月24日（土）・9月1日（日）展示解説、延べ参加者110人
- (5) 収蔵品展「埋もれた“モノ”に光を！・津久井郷土資料室資料紹介③～市民の力で博物館資料へ～」
※（6）・（7）と同時開催
内 容 新聞やチラシ・パンフレットをはじめ、マッチ箱・キャラメル箱・包装紙など、津久井郷土資料室にあるさまざまな資料を紹介した。
期 間 9月14日（土）～10月27日（日）
観覧料無料 観覧者7,238人
関連事業 9月15日（日）・9月22日（日）・10月26日（日）・10月27日（日）展示説明「展示を語ろう」
講師：水曜会会員、延べ参加者511人
- (6) 企画展 館野鴻 絵本原画展「ぎふちょう」 ※（5）・（7）と同時開催
内 容 ぎふちょうの一生をミクロな視点からとらえ、命のめぐりを細密に、かつ壮大なスケールで描いた話題の絵本の原画を展示した。
期 間 9月14日（土）～10月27日（日）
観覧料無料 観覧者 7,238人
関連事業 9月14日（土）ギャラリートーク「このすばらしきちっぽけな世界」
講師：館野鴻氏（動物画家）、参加者 30人
- (7) 博物館実習生制作展 ※（5）・（6）と同時開催
内 容 博物館実習における実務実習の一環として、分野別の収蔵資料を中心とした展示制作を行い、実習生が企画・資料研究・パネル制作・列品までを体験した。
期 間 9月14日（土）～10月27日（日）
観覧料無料 観覧者 7,238人
- (8) 学習資料展「大地さんと未来さんが見つけるちょっと昔のくらしX ～なにになに？この道具～」
内 容 小学校3・4年生の社会科学習の単元に合わせ、館所蔵品を中心に昔の道具や暮らしを紹介した。今年度はおじいちゃんやおばあちゃんが子どもの頃に使用していた洗濯機、蠅帳、炭火アイロン、火鉢、やぐらコタツなどの道具を中心に展示を行った。期間中は市民学芸員によるチャレンジ体験コーナーやクイズコーナーを開催した。
期 間 11月9日（土）～平成26年2月23日（日）
観覧料無料 観覧者20,110人
関連事業 11月9日（日）～2月23日間の日曜日（全8回）、参加者1,801人
「チャレンジ体験コーナー」（紙芝居、割り箸鉄砲、石臼ひきなどの体験）
- (9) 「相模原市の遺跡2014 境川流域の開発と暮らし」
内 容 相模野台地と多摩丘陵の間を流れる境川に焦点を当て、境川の右岸・左岸における旧石器時代から古代までの遺跡を通史的に取り上げ、境川流域がどのように開発され、また人々がどのように暮らしてきたかを探った。
期 間 平成26年3月21日（金）～5月6日（火）
観覧料無料 観覧者10,139人
関連事業 3月23日（日）「東と西が会おう丘～考古学からみた境川左岸の多摩丘陵」
講師：長佐古真也氏（東京都埋蔵文化財センター）、参加者127人
4月20日（日）「発掘調査発表会」（近年の発掘調査成果の調査担当者による発表）、参加者107人
4月29日（火）・5月4日（日）ワークショップ「オリジナルのまが玉を作ろう」、延べ参加者424人
3月30日（日）・4月13日（日）・5月6日（祝）展示解説、延べ参加者116人

講師：当館職員・文化財保護課職員

22年度の「ハヤブサ」カプセル公開に引き続いて、「はやぶさ」が持ち帰った小惑星「イトカワ」の微粒子を光学顕微鏡で直接観覧する機会を設けたことも大きな反響を呼んだ。市民の会である福の会の展示を行うとともに、新たに収集された尾崎罌堂の資料を紹介する展示も行われた。

平成 26 年度

(1) 「相模原市の遺跡 2014 境川流域の開発と暮らし」(前掲)

(2) 松橋利光写真展「相模原の生きもの見つけた！」※(3)と同時開催

内 容 相模原市出身の写真家松橋利光氏の写真を通して、相模原の生きものを紹介した。

期 間 5月24日(土)～6月29日(日)

観覧料無料 観覧者 7,037人

関連事業 5月24日(土)松橋利光ギャラリートーク「生きものカメラマン、相模原の自然を語る」、参加者 54人

(3) 収蔵品展「蔵の中の世界②～市民の力で博物館資料へ～」※(2)と同時開催

内 容 市民(福の会)とともに整理を行っている福田家の蔵に保管されていた婚礼用具や衣類をはじめ、麻溝地区から寄贈された信仰や講中などの資料を展示した。

期 間 5月24日(土)～6月29日(日)

観覧料無料 観覧者 7,037人

関連事業 5月25日(日)・6月8日(日)・6月22日(日)展示解説 講師：福の会会員、延べ参加者 433人

(4) 企画展「JAXA × 博物館 太陽にいとむ～日時計から太陽観測衛星まで～」

内 容 太陽について何がわかっており、何がわかっていないのか、その観測の歴史をたどると同時に最新のデータを活用して太陽の科学を紹介し、観測機器や太陽観測衛星の模型等を展示した。

期 間 7月12日(土)～8月31日(日)

観覧料無料 観覧者 19,473人

関連事業 7月21日(祝)記念講演会「太陽観測衛星「ひので」の発見」、参加者 67人
講師 殿岡英顕氏(JAXA開発員)
7月30日(水)工作教室「日時計を作ろう！」講師：小野行雄さん(日時計作

家)、参加者 57人

8月2日(土)・8月10日(日)・8月16日(土)・8月24日(日)・8月30日(土)
展示説明、延べ参加者 96人

(5) 企画展「尾崎罌堂没後 60 年展 ～罌堂と支策の人びと～」

内 容 尾崎行雄(罌堂)は幕末の津久井又野に生まれ、95年余の生涯を閉じてからちょうど60年の時を迎えることを記念し、政治家としてばかりでなく一人の生活者の側面にも目を向け、もう一度新しく尾崎行雄の半生を振り返る展示を行った。

期 間 9月13日(土)～10月13日(祝)

観覧料無料 観覧者 4,075人

関連事業 9月28日(日)記念講演会「憲政と罌堂」
講師：小林正弥氏(千葉大学大学院教授)、参加者 102人

10月5日(日)展示解説 講師：当館学芸員・尾崎行雄を全国に発信する会会員、参加者 24人

(6) 北里研究所創立 100 周年・北里大学創立 50 周年特別記念展「北里の弟子たち－北里柴三郎の贈り物－」

内 容 北里柴三郎博士が設立した北里研究所は平成26年に創立100周年を迎え、同研究所が創設した市内の北里大学は既に平成24年に創立50周年を迎えた。今回の特別展では、近代日本医学の黎明期を築いた北里柴三郎博士とその後継者たちの業績を紹介した。

期 間 10月25日(土)～11月16日(日)

観覧料無料 観覧者 4,433人

関連事業 10月26日(日)講演会「北里博士の理念を継承した門下生たち」、参加者 53人
講師：森 孝之氏(北里柴三郎記念室次長)

(7) 学習資料展「大地さんと未来さんが見つける「ちょっと昔のくらしX I」～戦争と生活～」* (8) (9)と同時開催

内 容 本市の核兵器廃絶平和都市宣言30周年にちなみテーマを「戦争と生活」とした。戦争の記憶が薄れていく昨今、小中学生が実物資料を自分の目で確かめ、先人の苦労や思い、そして「平和」について考える場とした。

期 間 11月26日(水)～平成27年4月5日(日)

観覧料無料 観覧者 25,501 人

関連事業 11月29日(土)ほか(全10回)チャレンジ体験コーナー(お手玉、ヨーヨー、けん玉など)

指導:市民学芸員、延べ参加者 2,329 人

- (8)核兵器廃絶平和都市宣言30周年記念事業「2014市民平和のつどい ながさき 戦争・原爆被災展」
(※主催・相模原市、共催・長崎市、公益財団長崎平和推進協会。(7)と同時開催)

内 容 翌年、戦後70年となるのを機に改めて平和と核兵器廃絶について正面から向き合うための展示として、犠牲者が着用していた背広や原爆炸裂の瞬間の時刻で止まっている時計など、実物資料や被災状況の写真を展示した。

期 間 11月26日(水)～平成27年2月1日(日)

観覧料無料 観覧者 12,568 人

関連事業 11月28日(金)・11月29日(土)長崎の被爆者による講話・家族の被爆証言(手話通訳、要約筆記付) 延べ参加者 95 人

- (9)「相模原市の遺跡2015 相模原発掘最新情報「塚」の考古学-なぜ人は土を盛ったのか-」(* (8)の終了後に(7)と同時開催)

内 容 「塚」は、墓、目印、信仰の対象などの目的で、人為的に土を盛って築造されたものであり、これまで調査された古墳や、近年調査されたその他の塚などの展示を通じて、我々の祖先がなぜ土を盛ったのか、そしてその塚にどのような意味を見出したのかを探った。

期 間 平成27年2月7日(土)～3月29日(日)

観覧料無料 観覧者 10,317 人

関連事業 3月22日(日)講演会「考古学から見た『塚』」講師:時枝務氏(立正大学教授)、参加者 170 人

3月22日(日)「発掘調査成果発表会」(近年の発掘調査成果の調査担当者による発表)講師:中山経一氏((株)武蔵文化財研究所)、参加者 150 人

2月15日(日)・3月22日(日)・3月29日(日)展示解説、延べ参加者 62 人

23年度の広島原爆展に引き続き、長崎の原爆投下に関する展示を実施した。全体的には、JAXA連携展、尾崎峯堂没後60周年、北里研究所創立100周年など、さまざまな機関との連携による展示が行われたほか、市

民の会や学習資料展などの収蔵品展など、ここ数年の当館の展示の特徴がよく表れたものとなっている。

以上、本稿は作成の元とした記録の制約もあってもとより完全ではなく、今後とも補訂していかなければならないものである。また、関連事業などは、数回開催されたものをまとめて記してあるところなどもあり、必ずしも記載が少ない特別展等でそうした事業が少なかったことを表すものではなく、例えば同時期に開催された講座など、別の教育普及活動とリンクさせてさまざまな企画を実施している例もあり、今後まとめる予定のそのほかの活動と併せて捉えていく必要がある。

この20年間の動向を見ると、通常の博物館で開催されるような特別展や企画展等の内容から、さまざまな要因によってJAXAをはじめとするいろいろな機関や団体あるいは市民の会との連携に基づくものが多く実施されることとなり、さらに学校の授業支援を目的とした学習資料展を毎年定例的に開催し、収蔵資料を活用した展示が中心となっていることが挙げられる。平成25年に当館の博物館協議会とともにまとめた当館の使命は、(1)地域の歴史や文化・自然に関する資料を調査研究し、また、収集した資料を適切に保存し蓄積するとともに、その活用を図りながら地域文化を継承・発信する拠点となること、(2)主体的に参加した市民と協働し、あるいは地域の諸機関と広く連携していく体制を整え、市民文化の向上に資する活動を積極的に展開すること、となっており、それを受けた当面の重点課題として、関連施設・機関との連携や市民との協働による博物館活動の展開が挙げられており、その意味では、こうした使命に基づきながら展示活動も進めていると言ってもよいものとなっている。

本稿では触れることはできなかった今年度(27年度)の展示も、市内在住の生物細密画家の方の作品である原画展(4～5月)、岩石の顕微鏡写真展(6月)、JAXA連携展(7～9月)、同時開催の開館20周年展・学習資料展(10～平成28年2月)、相模原の遺跡2016展(3月～28年度5月)を実施している。これからも今回のような作業を折に触れて行いつつ、今後の館の運営や活動に生かしていくことが求められる。